

# 授業づくり

# ○見通しがもてる授業

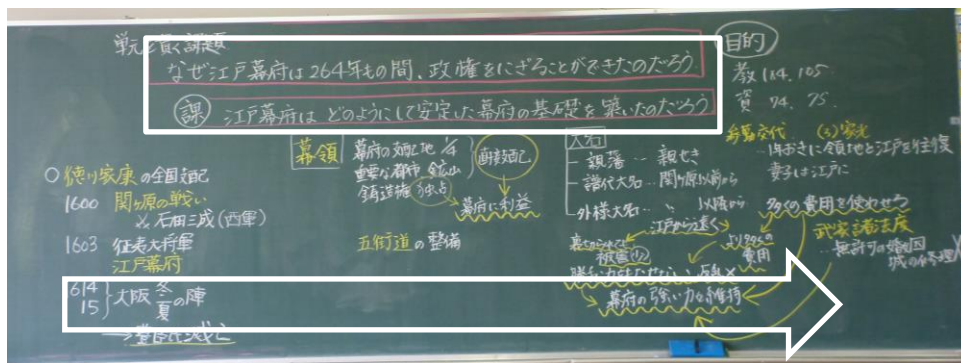
## ○学習の流れが一目で分かる板書の工夫

【なぜこの支援が有効になるのか】

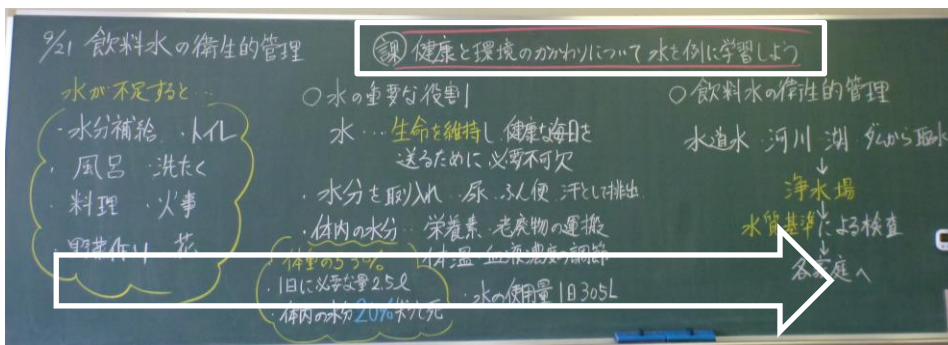
すべての生徒（障がいのある生徒含む）が「分かる」「できる」ようになるためには、構造的な板書が必要だと考えます。課題がどこに位置付いていて、どのような順序で学習が進んでいるかを生徒が理解できれば、安心して授業に臨むことができると考えます。この板書の形式を教科の枠を超えて統一するだけで、生徒にとっては学びやすい環境になると考えます。

〈支援・指導の実践例〉

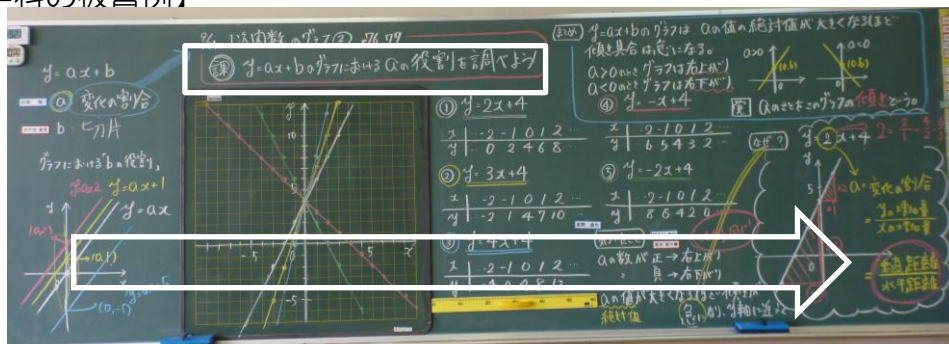
【社会科の板書例】



【保健体育科の板書例】



【数学科の板書例】



課題は赤で囲って黒板の真上に位置付け、学習の流れは左から右に流れるようにします。